

OCG社員 国際航路会議で論文発表

PIANC（国際航路協会）が南アフリカのケープタウン市で開いた第35回PIANC-World Congress2024（国際航路会議）に、オリエントコンサルタンツグローバル（OCG）から総合開発事業部港湾部プロジェクト部の中西雅時部長とレ・ブオン・ドン次長が参加し、それぞれ論文を発表した＝写真。

PIANCは、1885年に設立された国際機関で、ベルギー・ブラッセルに本部を置き、港湾・航路などの技術的課題に関する調査研究や開発途上国への技術援助などの活動を行っている。国際航路会議は4年に1度開かれる同協会最大の行事で今回は全体で700人を超える参加者がさまざまなトピックを発表した。

この中で、中西部長は「Various problems on executing port building project in Africa」と題して



「Resilient Port of Future: Case Study on the sustainability construction of the Patimban Port Development Project」と題して、インドネシア国パティンバン港プロジェクトを例に持続可能な建設事業について発表した。